

総合技術研究所の研究開発と技術支援について

1 研究開発

(1) 研究領域

重点的に取り組む研究分野として「重点研究領域」を設定し、その中から地域経済に大きなインパクトを与えることのできる研究として、経営資源を集中投資する「戦略研究領域」を選定しています。

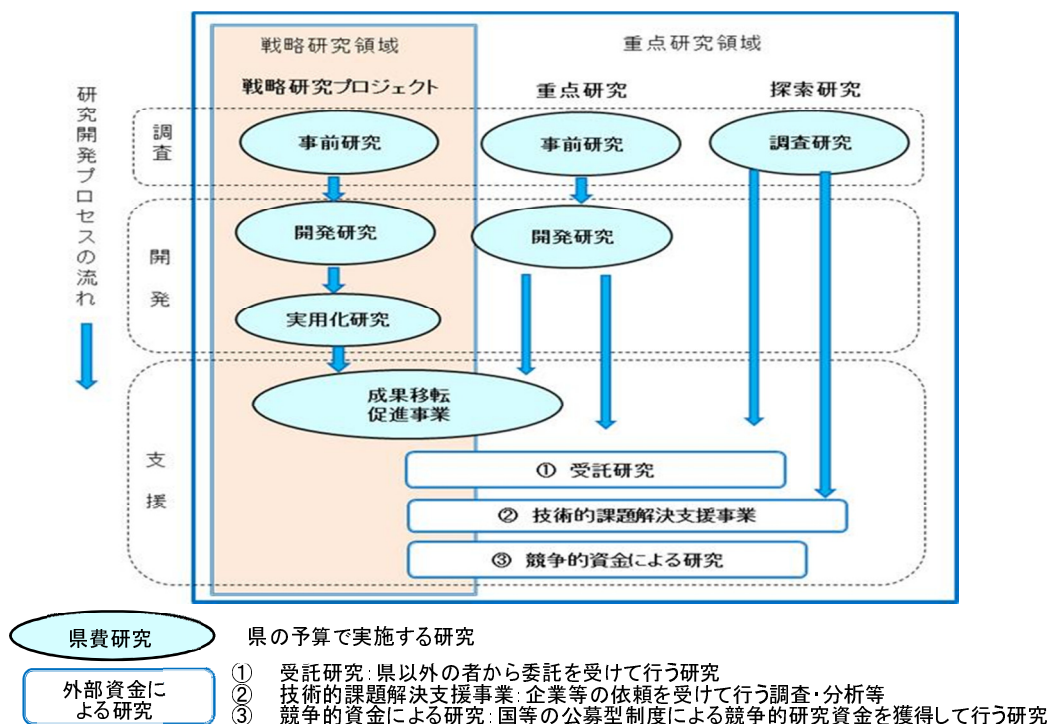
研究分野	重点研究領域	
	戦略研究領域	
医療・健康関連	【医工連携】 ○医療関連機器	○医療関連機器
環境・エネルギー関連	【環境関連】 ○環境浄化 ○廃棄物の3R(リデュース・リユース・リサイクル) 【省エネ関連】 ○製造プロセス省エネ化技術 ○省エネ製品・部品・デバイス	○環境浄化(水処理・リン回収装置) ○LED応用技術
ものづくり産業関連	【次世代自動車】 ○カーエレクトロニクス 【ものづくり産業の高度化・低炭素化】 ○人間工学 ○ロボットテクノロジー ○新素材加工 ○ものづくり基盤技術高度化	○ロボットテクノロジー(品質検査) ○新素材加工(炭素繊維複合材料) ○ものづくり基盤技術高度化(金型加工)
食品産業関連	【食品産業の高度化・高付加価値化】 ○食品(加工、鮮度・品質保持、機能性等) ○バイオ関連(微生物・酵素利用、醸造)	○食品機能性(凍結含浸技術普及※2)
農林水産業関連	【農工連携】 ○植物工場 【生産技術高度化等】 ○園芸重点品目※1 ○広島牛 ○かき ○地先定着型魚種 ○県産材(木材利用・生産システム)	○植物工場(生産プロセス高度化等) ○レモン利用促進技術開発 ○広島牛生産技術高度化 ○かき生産技術高度化 ○県産材構造用新材料開発
危機管理関連 (県民生活の安心・安全)	○人の健康と産業力低下に係る重大かつ緊急の危機管理事象に対応するもの	

※1 園芸重点品目:【野菜】キャベツ、トマト、青ネギ、ホウレンソウ、ワケギ、アスパラガス
 【果樹】いしじ、レモン、はるか、いちじく、ぶどう 【花き】きく

※2 凍結含浸技術:本県が開発した、食材の見た目、風味を保ったまま硬さを変えることが可能な技術

(2) 研究開発体系

研究開発区分を、①戦略研究領域に該当し中長期プロジェクト型の研究開発を目的とする「戦略研究」②早期技術移転型の研究開発を目的とする「重点研究」③新たな開発研究や技術支援につながる「探索研究」に区分し、「調査→開発→支援」という試験研究プロセスに沿って研究開発をおこなっています。県の予算で行う研究のほか、外部資金による研究も活用して技術の普及や企業支援を行っています。



総合技術研究所の研究開発と技術支援の流れ

(3) 評価制度

経営資源を重点投資する戦略研究及び重点研究の研究開発プロセスである開発研究及び実用化研究は、広島県研究開発評価委員会による外部評価（事前評価）を行い、研究課題を決定していました。また、研究終了後、事後評価及び追跡評価を行い、研究成果の効果的な移転を図っています。（平成25年度追跡評価結果はP38資料参照）

2 技術支援制度

総合技術研究所では次の技術支援メニューを実施し、企業支援を行っています。

項目	支援内容	利用料
依頼試験	依頼に応じ、試験、調査、分析等を行うもの	有料
設備利用	技術センターの設備を利用に供するもの	有料
受託研究	県以外の者から委託を受けて実施する研究	有料
技術的課題解決支援事業（ギカジ）	企業等からの依頼に対して、研究所が調査、分析等の手法を通じて、その課題解決に向けて検討し、技術指導や技術支援レポートの交付等を行うもの	有料
その他の技術指導	企業等からの依頼に対して、公知の技術等に基づいて行う技術指導	無料 〔 現地指導は旅費等を徴収 〕
人材育成支援	ア 企業等研究員受入制度 一定期間、職員の指導を受けながら研究等を行うことを希望する者を、県内企業等の依頼に応じて受け入れるもの イ 技術者研修 技術に関する専門知識等について、講義及び実習により研修を実施するもの ウ 依頼研修 地方公共団体等からの依頼に基づき研修生を受け入れるもの	ア 1日7,000円 イ 実費相当額 ウ 無料